

No21 平成29年4月28日



北山村

議会だより

編集発行
和歌山県北山村議会
TEL 0735-49-2331
FAX 0735-49-2207

おくとろ公園の桜



平成29年3月定例会は3月10日～15日（会期6日）開催され、条例に関する議案、平成28年度の補正予算、平成29年度の新年度予算に関する議案が提出され、原案どおり可決承認されました。

また、新年度を向かえ山口村長から施政方針、藪本教育長から教育方針についての説明が行われました。一般質問には4人の議員が登壇し、政策に対する取組みや方針についての質疑、行政全般にわたる要望や提言が行われました。

一般質問（議員4人が登壇）

P2～5

視察報告（災害対策特別委員会）

P6～7

議会日誌（1月～4月） / 編集後記（前岡議員） P8

奥澁道路3期区間の3号橋について

福村尚

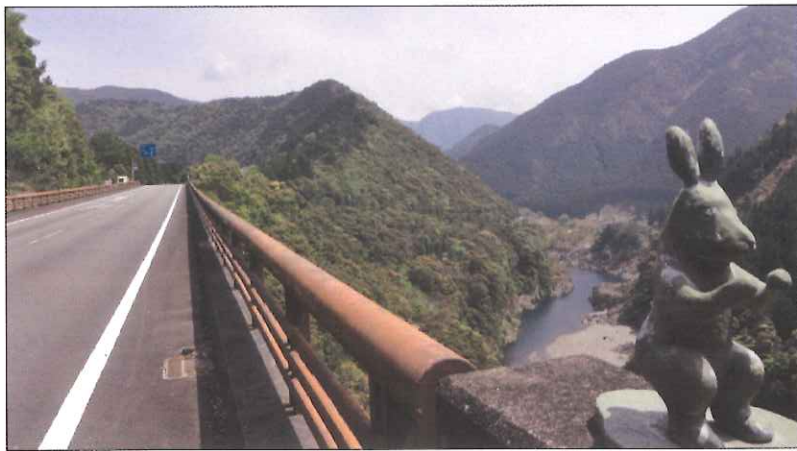
3号橋歩道橋の設置

【質問】先日の紀南河川国道事務所からの説明ビデオにおいても依然として3号橋の歩道橋の設置が図面に盛り込まれていなかった。引き続き、国への要望を続けていただきたい。また1号橋と2号橋について、場所などの確認をしたい。

【回答】1号橋については四の川から対岸の小森地域へ道路、現橋から勾配を付けて、対岸ヘトンネルで抜ける形。2号橋については小森の集落内を通り、北山からの出口に1か所・小松のほうヘトンネルの入り口のほうに1か所の計2か所の乗り入れ道路ができる予定である。

(産業建設課長)

【議員】2号橋には小森の集落につながる出入り口の設置



を要望したい。小森発電所も近くにあり、電源開発との協議を行いながら進めていくことができないのではないか。

1号橋には吉野熊野国立公園の周辺であることを前提に、じゃばら等のモニユメントの設置を要望したい。



非常時のアマチュア無線の運用について

【質問】昨年の消防団による行方不明者の捜索の際、アマチュア無線の利用方法が不適切ではなかったかと考えている。平成23年の紀伊半島水害の際、各地で道路が寸断される中、アマチュア無線を利用した道案内を行っていたという話もある。

まず役場で開局した社団局について教えていただきたい。

【回答】平成28年度の予算で北山村アマチュア無線クラブを作っている。メンバーは免許を所持している役場職員7名、設置場所は村民会館となっている。

(総務課長)

【質問】村内の免許所持者をクラブに加入し、年1回でも使い方の講習を行う必要があるのではないか、また機材の購入の一部助成などを行い、普及に努めるべきではないか。

東南海地震をはじめとする災害発生時には、県・新宮や周辺市町村との連絡調整、状況報告など活用のほうがあると思う。各種制度の検討をお願いしたい。

【回答】非常時の対応を含めて、村外の免許所持者も含めて非常通信連絡会等を結成し、非常時の連絡手段の一つとして運用を考えていきたい。そのなかで使い方等も徹底していきたい。

現時点で個人への補助は考えていないが、免許取得の講習など、普及の面から講習会を開催していきたい。

県の防災無線や新宮消防との無線の設置状況から、緊急時の情報収集についても可能であると考えている。

(総務課長)

空き家対策について

久保隆俊



そこで、空き家の現状把握はしているのか、所有者との連携状況について、過去3年間の税証明の確認、税証明のない空き家は強制撤去とするか、空き家改修補助制度の実績について質問します。

【回答】空き家対策は村の重要施策としての位置づけが必要である。和歌山県でも特措法の施行を受け、空き家対策推進協議会が設置されている。空き家対策は原則として所有者により行われるものであり、市町村はその補助を行うことが望ましいと考える。今後も積極的に空き家対策を講じていく必要がある。

空き家の調査については、26年度に県と連携して調査を実施、以後は各種情報提供を受けて、整理している。29年度に再度実態調査を行う予定である。所有者とは連絡できる体制をとっているが、

相続・死亡などにより連絡が取れないことも想定される。連絡手段の確保を努めたい。

納税状況については、特措法の施行により所有者の特定のための固定資産税情報の内部利用が可能である。しかし、税の滞納を理由に強制撤去を行うことは現実的に難しいものと考えられる。法に頼るのではなく、空き家解体補助制度の創設など、村独自の取り組みを検討したい。

改修事業補助金については28年度で1件325万円、取得補助については3件49万円となっている。運用上の課題もあり、今後委員会等で協議・検討を重ねたい。

(政策推進室長)

【質問】空き家の状況把握、独居老人等も含めたマップについてできているということであれば、今後の取り組みをどのように考えているか整理していただきたい。

また、北山村の街並み・景観維持を強制撤去を執行しても進めていただきたい。

た、空き家については台風による被害を受けている家屋なども放置されている状況。奥瀬道路Ⅲ期の開通が視野に入り、観光客の増加も期待される中、観光立村を標榜する村としては、空き家ガイドラインの設置を早期に進めていただきたい。

【回答】
(省略)



防災対策について

葛城 健也



【質問】 災害被害低減のために、「自助・共助・公助」の考え方が重要であると考えている。当初予算で計上された各種防災予算、昨年度までの取り組みなど住民の安心安全を守る取り組みがなされている。

大雨・台風時などの職員・消防団の体制、対策はどうなっているのか。また、東南海地震を見据えた体制・対策はどうなっているのか。

【回答】 七色ダムが1,500トン放流および増加が見込まれる時は総務課長・

消防防災担当・課長職を招集。警報発令時に被害発生のおそれが強くあり、七色ダムが3,000トン放流を行ったときは総務課・幹部職員・消防団長を招集。放流量が4,000トンに達し、台風の暴風県内に入る予測があり、タイ規模災害の恐れがあるときは、全職員・全消防団員の招集、という段階になっている。

地震については、震度5以上の地震発生時に全職員以上の招集と分団ごとの参集となっている。

道路の寸断等に備え、各地区の区民会館に防災行政無線、衛星電話、無線電話等を設置している。備蓄倉庫には、家屋倒壊等の救助作業などを想定し、各種備品を設置している。

区長の指示のもと、職員・消防団員は各地区で住民の安否確認や避難誘導、救助

活動を行い、被害の拡大を防止することになる。

(総務課長)

【質問】 大雨など予測できる場合はいいが、緊急の場合や雨がひどい場合など、二次災害の恐れがある場合もある。早期の避難についてはどう考えるか。ある程度ガイドラインなど必要になると思う。避難訓練や体制作りなども必要ではないか。

【回答】 早期の避難については、避難勧告など出した時点の早いうちに避難してもらいたい。また、29年度に地震を想定した訓練を計画する予定である。

(総務課長)

【質問】 ハザードマップの作成の有無、住民への周知をどうするのか。

【回答】 平成28年3月に防災マップと合わせて作成済みである。急傾斜地、土

石流の警戒区域やダム放水時における浸水エリアの想定など地域防災の推進を図る目的で作成したもの。

29年度において各戸配布も含めた活用方法を検討したい。

(政策推進室長)

【議員】 避難路のように、個人ではできずに村ですべきことなどもある、「自助・共助・公助」の区別をはっきりとつけて防災対策に取り組んでいただきたい。



LED照明の替え・家庭の火災警報器について(要望)

前岡 武津雄



防犯灯LED照明への交換

【質問】平成23年度に補助事業にて役場周辺の防犯灯24基をLEDに切り替えて以降、現時点で全部で60〜70基整備したと聞いている。防犯灯をLED照明に交換することで照明も明るくなり球も長もちし省エネにも繋がる。安心安全、防犯対策を進める観点から、村内全ての防犯灯をLED照明に切り替えていくことを推奨したい。

【回答】村内の防犯灯は180基程度あり、49基を和歌山県等の補助を受けてLED化している。それ以外にも防犯灯の故障、器具の故障などでLED化を進

め現74基がLEDとなっている。LED化の費用は一基3万円程であり、残りの106基をLED化した場合約300万円の費用がかかる。一気にLED化すると、逆に交換も同じ時期となり、LED化に関しては補助事業を含めて段階的に必要な箇所を整備していきたいと考えている。(総務課長)

【質問】予算を伴う事業となると来年から全個交換は難しい。だからといって補助金待ちでは、設置は遅れていく。補助金に頼るのではなく、まず10基でもいいから段階的な設置を要望したい。本年6月議会において予算化を検討していただきたい。

【回答】街灯、防犯灯としての機能は今のところ十分果たしており、特に村民から苦情も出ていない。LED化により電気代の節約にもなり、防犯灯として従来より明るくなるというメリッ

トもある。十分な検証を行い、村としての方針をきつちりと定め取り組んでいきたい。(村長)

家庭の火災警報器について

【質問】昨年の11月ごろで、台所で食事をしていたら「ピーツ」という音が鳴り、これはガス警報機だと思つて部屋を探すと違う。天井の上の方からまた「ピーツ」という音が鳴つたので、よく調べると火災警報機であつた。裏ぶたを見ると、平成21年7月製造で今年8年目のものであつた。住宅用火災警報機は、すべての住宅に設置が義務づけられており、基本的に10年を目安に交換する必要がある。

電池切れで鳴り出している家庭も多いと思う。中には壊れている家庭、電池切れで放置している家庭もあると思う。火災の早期発見、逃げ遅れの防止、そしてお年寄りや体の不自由な人の命を守るため、電池切れで何の意味もない。

村としてこれらの現状をどう思うのか。年内実施に向け予算化をお願いしたい。

【回答】チラシ案内にて火災警報機の耐用年数が10年程度となつており点検を勧めている。火災警報機は各家庭の家の大きさや部屋数によつて必要数も異なり、火災警報機も単独式、連動式の2タイプあり、2階に寝室のある家などは連動式タイプの必要性は高い。基本的には各家庭で、その家に合った火災警報機の設置と管理を行つていただきたい。しかし高齢者の多い北山村では、火災警報機の購入や設置がわからない方も多く、前回のよう機器の購入、設置の必要性を含め議会と協議を進めたい。(総務課長)



東日本大震災の被災地視察

災害対策特別委員会

平成28年10月28日 東京から約90分、仙台駅に午前10時30分に到着する。語り部&タクシ―乗務員の桜井氏の案内で、仙台市と石巻市、東松島市の順で被災地視察を訪問する。平成23年3月11日に発生した東日本大震災では、桜井氏自身も自衛隊であった長男を亡くしている。彼自身も、津波に巻き込まれながらも娘を救出したという、聞き手にとつても痛ましい思いであつたが、被災者の体験を肌で感じるこゝろができたのは幸いであつた。

高速道路に入ると車窓からの眺めは広陵とした大地が続き空は高く快晴である。少し風が強いが思つていた以上に温かく視察日和である。高速道路は車も比較的少ないが一般道路に入ると至る箇所で工事車両とすれ違ふ。ダンプなどは地元ナンバーが多く他府県ナンバーは意外と少ない。道路舗装や河川の嵩上げ、宅地整備など、今も工事が進められており、震災復興のインフラ整備は約70%。ただ未だ至る箇所に仮設住宅が設けられ、今なお多くの被災者が辛く不便な生活をしている。地域住民が助け合い、励ましながら、これが長期間にわたると住民間のトラブルで喧嘩が絶えないなど現実がある。町では地域の気質から義援金などが殆どギャンブル消えたという人も多く、生活が被災した人など苦しい生活が続いているとのこと。

新北上山沿いの道路を上ると、海から約5キロの流でも津波が遡上し多くの犠牲者を出した被災地命が点在している。津波から2名が押し寄せ、津波が通過した犠牲に沿道を通り、石巻市旧大川小学校に到着して、旧校舎は被災を受けた。そのままでの校舎を建て替へた。旧校舎は被災を受けた。そのままでの校舎を建て替へた。旧校舎は被災を受けた。そのままでの校舎を建て替へた。



も無い。児童78名中70名が死亡、11名中10名が死亡した職員という、生存率5.6%という痛ましい災害現場である。桜井氏から線香、花束をいだき慰霊碑にて追悼する。地震発生から津波に呑み込まれるまでの約40分間なぜグランドに留まったのか?今でも先生達の引率がある。偶々にも我々が訪問した前日に、仙台市と宮城県小の遺族が賠償を求めた訴訟の判決がある。仙台市と宮城県小の判決は、仙台市側が約1億4千万円の支払を命じ、裁判の結果を受け市側は

いだろう、避難所として、余りにも低い校舎はある。旧校舎は鉄筋コンクリートであるが殆ど全壊であり津波の威力がなんと凄まじいことか。周辺地域は多くの住宅が存在したというが周り全て破壊され何



控訴に踏み切っているようであるが、「津波で無くなつた大切な命をどう考えるか？児童たちは先生の言葉を信じ、校庭に集合し先生の言う事を守って行動していただけ。子供達の命を守るための行動とは？少しでも高い場所へ逃げるといふのが津波防災の基本ではないのか。」行政に対する厳しい桜井氏の言葉が重く心に残った。色んな反論もあるだろうが、いずれにしても残された者同士が責めあうという辛い悲しい話であり、色んな意味でこの教訓を活かさなければならぬと思った。

山で向かった先は日和の山である。多くの市民がこの高台に避難し、自分達の町が津波に襲われ猛火に焼き尽くされるのを目撃していた場所である。石巻市の沖合約10キロが震源地とされ津波によって尊い市民約3千人が亡くなっている。旧大川小学校の災害と並んで語られるのが日和幼稚園の園児犠牲である。安全な場所である日和山へ急ぐさなか、園児12人を乗せた送迎バスが、逆方向の危険な市内（親元の家）に向かったために、津波に巻き込まれた5人の尊い園児が犠牲になつていて、避難誘導に問題がなかったとき

最後に向かった先は東松島市のJR仙石線・旧野蒜駅にある震災復興メモリアルパーク震災伝承館である。震災で犠牲になつた市民への追悼と震災

の記憶を風化させないための施設である。被災地からのメッセージは、被災地を想い、東日本大震災があつたことを後世に語り伝えることの大切さである。常日頃から防災意識を高く持ち続けることは困難である。だからこそ、普段から無意識で行動できるような習慣にしなければならぬ。この教訓である。

今後の取り組み

視察から帰って以後、村の防災体制を見直すと共に、まず行わなければならぬ防災対策は何か？村行政と検討を行っている。

平成29年度当初予算において、全家庭への地震ブレーキの設置を決定した。木造、災害時に最も恐ろしい

のは、漏電・ガス漏れなどによる火災の発生と拡大である。家屋や山林への延焼が発生した場合、被害は格段に大きくなる。それを防ぐための措置として導入を決定したものである。

また、村内における各種災害に対する対応マニュアルの作成や、避難訓練の実施など、これまで対応が十分ではなかった点、あるいは近年の災害の激甚化に伴う見直しなど、随時必要な対策を、村行政と協力して、推し進めていきたいと考えている。

一方で、まずは村民の皆様自身の、災害に対する備えを充実させて頂くことをお願いしたい。何よりも守るべきは自分の命が第一である。備えはしすぎるといふ事はない。「災害は忘れた頃にやってくる」といふほど、近年は忘れる暇もないほど各地を災害が襲つていく。明日は我が身と今一度、命を引き締め、村民の皆様一同一丸となつて取り組んでいく所存である。

議会日誌

1月

- 3日 成人式(村民会館)
 4日 消防出初式(下尾井グラウンド)
 6日 和歌山県知事への新年挨拶(和歌山市)
 13日 紀南河川国道事務所への新年挨拶(田辺市)
 16～17日 奥瀬道路3期工事の陳情(東京)
 23～25日 じゃばら製造ライン視察(金沢市)

2月

- 1～2日 町村議長会臨時総会(和歌山市)
 3日 月例監査(役場)
 4日 北方領土返還要求大会(和歌山市)
 9日～10日 町村議長会正副議長研修(和歌山市)
 14日 新宮広域圏定例議会(新宮市)
 15日 後期高齢者医療組合議会(和歌山市)
 17日 総務建設常任委員会(役場)
 24日 紀南環境衛生組合定例会(新宮市)

3月

- 2日 月例監査(役場)
 8日 議会運営委員会 議会全員協議会(役場)
 10～15日 3月定例会(議場)
 25日 南清園竣工式(新宮市)
 28日 東牟婁郡町村議会議長会研修(那智勝浦町)
 27日 社会福祉協議会理事会(社協)
 30日 月例監査(役場)

4月

- 3日 入庁式(役場)
 7日～8日 地元国會議員への陳情(大阪)
 16日 十津川村長選挙・串本町長・議會議員選挙
 17日 内外情勢報告会・挨拶廻り(和歌山市)



編集後記

桜の美しい季節となりました。表紙のおくどろ温泉付近のソメイヨシノ(染井吉野)です。ちょうど満開の頃を撮影することができました。

桜について調べてみますと、日本には数十・数百種類もの桜があるそうです。なかでもソメイヨシノは現在最も多くの公園や街路樹に植えられている桜だそうです。発育は五年頃から見頃を迎える早熟な一方で、寿命は六十年程と言われる短命だとか。原産には諸説あり、江戸時代末期に江戸染井の植木屋から出て、明治の初めから急速に全国に広まったとか、朝鮮済州島の原産とか言われているそうです。

また、ソメイヨシノは接ぎ木でしか増えないので、日本中のソメイヨシノはすべて同一の遺伝子なのだそうです。なんだかじゃばらとそっくりですね。

日本の桜は非常に美しい花木だと思います。昔から国民に愛好され、文学・詩歌・絵画などに広く取り扱われています。和歌山県出身のかの西行法師も「今よりは花見人人に 伝えおかん世を遁れつつ 山に住まへ」と詠っておりました。静かに山の中で眺める桜を、西行法師も愛していたのでしようか。各地に植えられ、多くの名所銘木がある桜は、一時に咲き、一時に散るその風情をもって国民に愛され、日本を代表する花となつてほしい。

最後に、「議会だより」の発行は、村政に関心を持っていただくことを目的としております。記事の内容についても、少しでも興味を持っていただけるように努力していく所存です。今後も皆様の暖かいご支援をよろしく願いたします。

(議会広報委員 前岡武津雄)